

激甚指定、「災害ごみ」対策などで市長に要請

日本共産党上越地区委員会中越沖地震対策本部

日本共産党上越地区委員会内に設置した中越沖地震対策本部（阿部正義本部長）は13日、木浦正幸市長に対して二回目の申入れを行いました。

が応対し、検討を約束しました。今回の申入れでは、阿部本部長の他、事務局長の私、上越市議の杉本、樋口両氏が参加しました。

意思しました。その合意を守る最高責任者は市長です。10日の市議会各派代表者会議などで、提言の内容や市長の対応に批判が続出。13区選出の議員で構成する「13区議員の会」（会長は中郷区選出の吉田なおし市議）では、今回の提言に一致して対応することを確認しています。

行革市民会議の議員定数削減提言に怒りの声続出

「議員の定数は38名以内にすべき」との提言が、こともあろうに市長の諮問機関から出ました。

14市町村の合併協議では、もめにもめて、新市になじむまでの一定期間、「13の区からも必ず議員を出し、各区住民の要望を議会に反映できるように定数特例は2回」で合

申入れの中身は、激甚災害の指定に向けての努力、柏崎・刈羽原子力発電所の今回の地震対応について、市民の安全と暮らしを守る立場から厳しく抗議すること、建物の被害認定調査内容と結果について被災者に納得がいくように丁寧な説明をすること、再調査の申請は何回でもできることを関係者に伝えること、JR特急北越、快速くびき野のほくほく線周りで運行など11項目です。

申入れには中川周一副市長、土橋均防災局長



上越市内在住の地学研究グループが11日、吉川区に入り中越沖地震の被害状況などを視察しました。

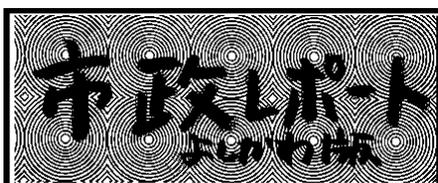
田の畦や山が何ヶ所も崩落した上川谷では、なぜ、崩れが起きたかを中心に調査（写真）しました。同グループによると、いまの上川谷は天明山などの山が過去に大きな地すべりを起こしていて、今回の地震による崩れは「地すべり」というよりも「かつての子地すべり、または孫地すべりの先端部分の崩落といった方がいいのではないか」との説明でした。

市の災害対策本部は復旧支援本部に

地震発生直後に設置した市の災害対策本部は11日、災害復旧支援本部に移行しました。これに伴い、各区の現地災害対策本部も支援本部に移行しました。

下表は14日午後5時現在の建物被害状況。吉川区の非住家の全壊が100棟になりました。

	被災世帯数	住家				非住家			
		全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
		棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
合併前上越市	94				94	5	1	70	
安塚区	17				17	1		6	
浦川原区	94	1		2	91		2	51	
大島区	36				36			4	
牧区	57			2	55			5	
柿崎区	1222	9		26	1184	138	9	47	387
大潟区	42				42			3	38
頸城区	123	1		2	120	40	1	4	87
吉川区	622	2		13	608	100	15	54	324
中郷区	0								
板倉区	1				1				1
清里区	1				1				1
三和区	241	1	1	2	237	40	8	7	117
名立区	17				17				7
合計	2567	14	1	47	2503	324	33	118	1098



NO 1308
2007.8.19

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www1.ocn.ne.jp/~hose/